官報

第百四拾三號　明治十六年十二月十八日　火曜日

太政官文書局

○布告

○第四拾貳號

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ屆出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

右奉　勅旨布告候事

明治十六年十二月十八日

太政大臣三條實美
大藏卿松方正義

○布達

○太政官第三拾八號

海軍志願兵徵募規則別冊ノ通之ヲ定ム

右布達候事

明治十六年十二月十八日

太政大臣三條實美
海軍卿川村純義

本文
本文
第143号

（別冊）

海軍志願兵徵募規則

第一條　海軍兵員タランコトヲ志願スル者ハ本則ニ照シテ之ヲ徵募ス但軍樂隊ハ別ニ規則ヲ設ク

第二條　志願兵ノ服役ヲ別チテ現役及ヒ豫備役トス

現役年期卒ニ在テハ長期ヲ十個年短期ヲ七個年トシ准卒ニ在テハ總テ三個年トス

豫備役ハ現役長期ヲ終リシ者ヲシテ二個年間短期ヲ終リシ者ヲシテ五個年間之ニ服セシム

准卒ニ在テハ豫備役ナシ

第三條　卒ニ徵募スル者ハ年齡十七歲ヨリ二十五歲迄ノ者ニシテ其職名ノ大別ハ左ノ如シ

水兵、火夫、職工、看病夫

第四條　准卒ニ徵募スル者ハ年齡十五歲ヨリ四十歲迄ノ者ニシテ其職名ハ左ノ如シ

裁縫夫、造靴夫、守燈夫、剃夫

厨宰介及ヒ諸厨宰

割烹手介、割烹夫及ヒ諸割烹手

諸從僕及ヒ諸仕丁

第五條　卒ノ年齡ハ第三條ニ揭クル如シト雖モ左ニ揭クル者ハ出願スルコトヲ得

一　十五歲以上ニシテ體格强壯ナル者但十七歲ニ滿タサレハ服役年數ニ算入セス

二　三十五歲未滿ニシテ西洋形船舶或ハ造船所等ニ從事シ其技藝ニ熟達スル者

三　三十五歲未滿ニシテ府縣立商船學校ノ卒業證書ヲ所持スル者

四　前二項ノ者ハ直ニ下士ニ任スルコトアリ

第六條　水兵火夫ニ徵募スル者ノ身幹ハ五尺以上トス但十七歲未滿ノ者ハ四尺九寸以上トス

第七條　豫備役ニ入ル者ニハ其證書ヲ附與シ常ニ家居シテ產業ヲ營マシメ戰時或ハ事變ニ際シ之ヲ召集ス

第八條　卒ニシテ現役ヲ終リ尙一個年以上ノ再役ヲ出願スル者ハ之ヲ許可ス但現役十二年ニ滿ル者ハ豫備役ニ服セシメス

第九條　准卒ニシテ兵役ヲ終ル者ハ尙一個年以上ノ再役ヲ出願スルコトヲ得

第十條　現役中技藝ニ熟達シ行狀方正且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シテ下士ニ任ス

第十一條　現役中ハ食料被服ヲ官給シ且相當ノ日給ヲ與フ

第十二條　現役中ハ卒ノ家族アル者ニ限リ其扶助金トシテ一個月壹圓七拾五錢宛ヲ給ス其金額ハ每三個月ニ海軍省ヨリ各地方廳ヲ經テ其家族ニ下付スルモノトス

第十三條　服役年期中ハ現役豫備役ヲ論セス何等ノ事故アルモ免役出願ヲ許サス

第十四條　現役年期已ニ滿ル者ト雖モ戰時若クハ事變ノ際或ハ航海中ハ其期ヲ延スコトアル可シ此場合ニ於テハ其延期日數ヲ豫備役年期ヨリ除算ス

第十五條　徵募ノ地方及ヒ其人員等ハ徵募ヲ要スルトキ豫メ海軍卿ヨリ其地方廳ニ達ス可シ但准卒ハ臨時鎭守府或ハ艦船營ヨリ徵募スルモノトス

第十六條　地方廳ハ其達書ニ記載スル日限迄ニ本籍寄留ノ別ナク志願人ヲ調査シ其人員ヲ鎭守府ニ通牒ス可シ

第十七條　志願人ハ父兄其他親族或ハ後見人ヲ以テ身元引受人ト爲ス可シ然レトモ居住ノ地ニ親族或ハ後見人ナキトキハ其地ニ本籍アリ身元正確ナル者ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第十八條　身元引受人ハ第一號書式ノ願書ニ志願人ノ履歷書ヲ添ヘ管轄地方廳ニ差出シ該廳ハ其願書正副共ニ巡回募兵使ニ出ス可シ但准卒ハ身元引受人ヨリ直ニ鎭守府或ハ艦船營ニ出ス可シ

第十九條　左ニ揭クル者ハ兵役ヲ出願スルコトヲ許サス

刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

公權停止中ノ者

重罪ノ刑ニ處セラレタル者

第二十條　募兵官員及ヒ其職務ハ左ノ如シ

募兵使

海軍佐官或ハ大尉ヲ以テ之ニ充ツ府縣ニ派出シテ兵員徵募ノ事務ヲ掌ル

募兵副使

海軍尉官ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ヲ輔助スル事ヲ掌ル但時宜ニ因リ之ヲ欠クコトアリ

第143号　本文

募兵醫官

海軍軍醫ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ志願人ノ身幹體格ヲ撿査スル事ヲ掌ル

募兵書記

海軍下士或ハ十等以下ノ軍屬ヲ以テ之ニ充ツ募兵使ニ從ヒ諸記錄ノ事ヲ掌ル

第二十一條　地方長官ハ屬官ヲシテ管內兵員徵募ノ事務ヲ輔助セシム可シ

第二十二條　郡區長及ヒ戶長ハ其郡區町村內兵員徵募ニ關スル事ヲ掌ル可シ

第二十三條　募兵使ハ府縣屬官及ヒ郡區長ト商議シ豫メ撿査ノ場所及ヒ日割人員等ヲ定メ戶長ヲ經テ志願人ニ出頭ヲ命ス可シ

第二十四條　志願人ノ撿査ハ府縣屬官或ハ郡區長ノ立會ヲ要ス但郡區長事故アルトキハ其書記ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第二十五條　撿査合格ノ者ニハ募兵使ヨリ立會ノ府縣屬官或ハ郡區長ヲシテ第二號書式ノ採用證書ヲ附與セシム

第二十六條　撿査合格ノ者ニ採用證書ヲ附與シタルトキハ戶長ヨリ第三號書式ノ本人戶籍明細書ヲ出サシム其用紙ハ募兵使ヨリ下附ス

第二十七條　寄留地ニ於テ採用スル者ハ募兵使ヨリ其旨本籍ノ地方廳ニ通知シ該廳ハ本人所管ノ戶長ヲシテ第二十六條ニ揭クル戶籍明細書ヲ出サシメ募兵使或ハ鎭守府ニ送附ス可シ

第二十八條　採用ノ兵員ハ募兵使携帶ノ誓約簿ニ各自記名捺印ス可シ

第二十九條　合格ノ者所要ノ人員ニ超過スルトキハ抽籤法ヲ以テ當籤者ヲ採用ス

第三十條　抽籤ハ各自ニ之ヲ行ハシムルモノトス但便宜ニ因リ一名乃至三名ヲ抽籤總代ト爲スコトヲ得

第三十一條　撿査呼出ニ際シ病氣或ハ父母ノ重病等ノ爲メ一時出頭シ難キ者或ハ之カ爲メ願書却下ヲ請フ者ハ其事實ヲ詳記シ戶長ノ證印ヲ受ケ郡區長ヲ經テ募兵使ニ申出其處分ヲ受ク可シ

第三十二條　徵募ノ兵員各地發程ノ期限ハ募兵使ヨリ達ス可シ府縣屬官或ハ郡區長ハ府縣或ハ郡區每ニ其兵員ヲ便宜ノ場所ニ集合セシメ其內一名若クハ二名ヲ取締ト爲シ同時ニ發程セシム可シ

第三十三條　疾病其他已ムヲ得サル事故ニテ發程シ難キ者ハ其事實ヲ詳記シ（疾病者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ）戶長ノ證印ヲ受ケ郡區長ヲ經テ募兵使或ハ鎭守府ニ屆出可シ

第三十四條　徵募ノ兵員各自居住ノ地ヨリ入營迄ノ旅費ハ官給トス撿査ノ場所ヘ往復並ニ滯在等ノ費用ハ總テ自辨タル可シ

第三十五條　現役中公務ニ因リ傷痍疾病ヲ受ケ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ海軍恩給令ニ照準シテ相當ノ恩給ヲ與フ

第三十六條　現役中傷痍疾病ニ罹ル者ハ海軍病院ニ入レ治療セシメ若シ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ上旅費ヲ給シ歸鄕セシム但服役實期十一年以上ノ者ハ第三十五條ニ同シ

第三十七條　現役中父母ノ重病或ハ一家ノ安危ニ係ル等非常ノ事故アリ一時已ムヲ得スシテ父母又ハ親族等ヨリ其事實ヲ詳記シ（疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ）郡區長ノ奧書證印ヲ受ケ本人ノ所轄廳ニ願出ルトキハ詮議ノ上往復ヲ除キ二週日以內ノ歸省ヲ許ス其旅費ハ自辨タル可シ但二等若水兵若火夫ハ本文ノ限ニ在ラス

第三十八條　現役中其職務勉勵ノ者ニハ滿三年每ニ慰勞金ヲ下賜ス但其現金ハ免役再役退役若クハ下士ニ昇級ノトキ下附ス

第一號書式（用紙美濃紙）

海軍兵員願

何府縣何國何郡區何町村何番地（寄留者ハ寄留地モ明細ニ記ス可シ）

華士族平民

何某男或ハ弟又ハ何々

何某

年齡何年何月何年何ケ月

何年何月何日於

何國何郡區何町村生

右ノ者何個年期海軍水兵（火夫或ハ何々）志願ニ付御撿査ノ上御採用相成候樣其筋エ御申立被下度此段奉願候也

何府縣何國何郡區何町村何番地

華士族平民

右何某父或ハ兄又ハ何々

身元引受人　何某印

年月日

第143号　本文

前書之通相違無之候也

何府知事
何縣令　何某殿

前書願出ニ付本人撿査ノ上御取捨有之度候也

年　月　日

海軍募兵使
御中

第二號書式

右何個年期ヲ以テ海軍水兵（或ハ何々）ニ採用候事

年　月　日

第三號書式

戸籍明細書

本管族籍

氏　名　肩書ニ戸主カ二三男カ養子カ明記スヘシ

出生ノ年月日

生國地名

本籍住所

右戸長
何　某　印

何府知事
何縣令　何　某　印

何府縣何國何郡區何町村何番地
華士族平民
何某男或ハ弟又ハ何々
何　某

海軍募兵使
海軍何官何某印

寄留住所　全戸カ單身カ明記スヘシ

宗　門　神葬ハ神道ト記スヘシ

家族人名及其誕辰　父母妻子兄弟等全戸ノ者總テ之ヲ記ス但父母ノ實養ヲ詳ニス可シ

父　氏名　何年何月何日生　母　名　同上　兄　氏名　同上　弟　氏名　同上　姉　名　何年何月何日生　妹　名　同上

其他右ニ準ス

前書之通相違無之候也

年　月　日

右戸長何　某　印

○達

○海軍省丙第百拾六號

海軍生徒及下士以下ニシテ傳染病ノ爲メ死亡シタル遺體ヲ成規ニ據テ藥引ノ甕ニ入レ若クハ焚キテ之ヲ埋葬スルトキハ明治十三年七月丙第六拾五號省達下士以下埋葬料ノ外ニ現費ヲ以テ其焚（甕）代ヲ給ス此旨相達候事

但明治十四年丙第六拾七號省達ハ自今廢止ス

明治十六年十二月十八日

海軍卿川村純義

○司法省丙第拾號

雜收入金上納記幷ニ明細書從前書式相廢シ左ノ雛形之通改正候條以來右ニ照準取調本人納証一同翌月十五日限リ可差出若シ收入無之トキハ其旨可屆出此旨相達候事

但納証綴首尾ニ白紙ヲ用ヒ何年何月雜收入金上納証何府縣ト記載可致候事

明治十六年十二月十八日

用紙十三行罫紙

警視廳　府縣　憲兵本部

司法卿山田顯義

上納記

何月分雜收入

一金

賍贖追徵金

第143号　本文

但何地大藏省爲換方何銀行又ハ何ノ誰納金証書何葉ヲ以テ
內譯
金　　金
金　　金
右上納候也
明治何年何月何日
司法卿宛
用紙十三行野紙

何年何月雜收入金明細書

一金　　內譯
金　　內
金　　金
金　　內
金　　金
金　　內
金　　金
右之通候也
年　月　日
首尾ニ白美濃紙ヲ用ヒ表紙ニ何年何月雜入金明細書何府縣ト記載スヘシ

賑　金
賑物賣拂代
科　料　金

官姓名印

賑贖追徵金
同
賑物賣拂金
國郡町村人名何品何々付拂代
同
科料金
國郡町村人名何々付納
同

何府縣

○東京府達

○東京府丙第百九拾四號　　郡區役所

郡區役所會計規則別冊之通相定候條此旨相達候事

明治十六年十二月十八日　　東京府知事芳川顯正

（別冊）

郡區役所會計規則

第一條　金錢ノ收出ハ總テ成規ニ據リ之ヲ執行スヘシ若シ成規ノ據ルヘキナキカ又ハ事理不明瞭ナルモノアルトキハ其事由ヲ府廳ヘ具申シ指揮ヲ請フヘシ

第二條　國稅地方稅雜收入諸貸下金協議費共有金經費備荒儲蓄公儲金公園地金上水賦金墓地金寄附金寄托金其他郡區役所ニ於テ管理スル一切ノ金錢ハ各其種類及ヒ科目ヲ明瞭ニ區別スヘシ

第三條　金錢ノ出納ハ總テ金券ヲ以テ之ヲ執行シ現金ハ爲換方ヲシテ取扱ハシムヘシ

第四條　府廳ヘ納入スル金錢ハ總テ金券（雜收入諸貸下金ノ類ハ國庫金取扱所地方稅其他ハ爲換方）ニ換ヘ之ヲ上納スヘシ

第五條　諸收納金（國稅ヲ除ク）ハ其納入ヨリ差出セル納金證書ニ主任ノ撿印ヲ押捺シ納入ヲシテ爲換方ニ就キ現金ヲ假預リ金券ニ換ヘ納金證書ヲ添ヘテ之ヲ出サシメ郡區長ノ調印幷主任ノ撿印アル領收證ト交換スヘシ

第六條　日々收入スル所ノ金錢ハ現金受拂簿ト甲乙簿ト照合シ之ヲ其日ノ預ケ金トナスヘシ

第七條　郡區役所經費中俸給傭給手數料廳費ハ其年額ヲ十二分シ前月二十五日マテニ請求書ヲ府廳ヘ差出スヘシ但シ浦役場費及ヒ戶長役場經費（旅費賞與ヲ除ク）モ亦之ニ準ス

第八條　郡區廳舍營繕費救育費及ヒ郡區役所經費ノ內旅費賞與ハ其支出ヲ要スル時ニ臨ミ府廳ヘ申請スヘシ但シ難破船諸費揭示場費及戶長役場經費ノ內旅費賞與モ亦之ニ準ス

第九條　經費ノ支出ハ其豫算ノ金額ニ超過スヘカラス若シ已ヲ得サル事故アリ大科目（俸給雜費）ノ流用支辨ヲ要スルトキハ其事由ヲ府廳ヘ具申シ許可ヲ受クヘシ

第十條　豫算外臨時增費ヲ要スルトキハ其事由ヲ府廳ヘ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十一條　諸拂出金ハ其仕拂切符ト請取證トヲ交換シ請取人ヲシテ爲換方ニ就キ現金ヲ受取ラシムヘシ

第十二條　仕拂切符ハ請求書又ハ回議書ニ據テ之ヲ調製シ郡區長ノ調印幷主任ノ撿印ヲ具フヘシ但シ其切符ニ記載セル金員ヲ塗抹改竄セルカ又ハ押印ノ具備セサルモノハ一切使用スルヲ得ス

第十三條　日々支出スル所ノ金錢ハ現金受拂簿ト甲乙簿ト照合シ之ヲ其日ノ拂出金トナスヘシ

第十四條　現金受拂殘高表及ヒ日計表ト爲換方甲乙簿ハ郡區長ニ於テ日々對照シ之ニ調印スヘシ

第十五條　共有金等ヲ預ケ金トナストキハ其金高ニ應シタル抵當品ヲ徵シ置クヘシ但シ抵當品ハ公債證書ニ限ルモノトス

第十六條　每一ケ月三度現金殘高內譯表ヲ調製シ之ヲ府廳ヘ差出スヘシ

第十七條　每一ケ月出納スル所ノ金員科目及ヒ事由ヲ摘記シタル金錢收出計算書ヲ作リ翌月七日マテニ之ヲ府廳ヘ差出スヘシ

第十八條　金錢出納ノ閉鎖ハ每會計年度經過後四ケ月（十月三十一日）ヲ以

許可 143 本文

テ其期限トス此期限ヲ過ル後ハ一切出納ヲナスヘカラス

第十九條　出納閉鎖ノ期ニ臨ミ若シ收出決算ニ至ラサルモノアルトキハ其事由ヲ府廳ヘ具申シ指揮ヲ請フヘシ

第二十條　諸費決算上殘餘金アルトキハ之ヲ府廳ヘ還納スヘシ

第二十一條　毎年度地方稅備荒儲蓄公儲金及ヒ郡區役所經費廳舍營繕費救育費戸長役場經費浦役場及難破船諸費掲示場費ノ決算書ハ翌年度十一月二十日マテニ府廳ヘ差出シ其承認ヲ受クヘシ

第二十二條　毎年度諸貸下金公園地金上水賦金ノ決算書ハ翌年度一月三十一日マテニ府廳ヘ差出シ其承認ヲ受クヘシ

第二十三條　金錢出納ノ簿記ハ複記式ヲ用ヰ簿記規則ニ據リ之ヲ取扱フヘシ

第二十四條　金錢收出ノ證書類ハ一ケ年度分毎科目ニ分チ之ヲ蒐輯シ毎冊ニ證書ノ枚數及ヒ金員ノ合計ヲ掲記スヘシ但シ一ノ證書ニシテ他ノ科目ヲ併記セルモノハ其原證書ヲ甲科目ニ編入シ乙科目ヘハ寫書ヲ挿入スヘシ

第二十五條　金錢物品出納ノ帳簿ハ府廳ヨリ派出スル調査員ノ調査ヲ受クヘシ但シ其調査ヲ了ルトキハ派出員ノ撿印ヲ押捺スルモノトス

○東京府丙第百九拾五號　郡區役所

郡區役所簿記規則幷附錄別冊之通相定候條來明治十七年一月ヨリ施行スヘシ右施行ノ上ハ明治十三年丙第五拾號幷十四年乙第百拾七號達ハ廢止ノ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但本文施行ノ儀延期ヲ要スル向ハ其事由ヲ具申スヘシ

（附錄別冊ハ別ニ頒ツ）

明治十六年十二月十八日　東京府知事芳川顯正

郡區役所簿記規則

第一條　金錢出納ノ帳簿ハ複記式ニ據リ原簿日記簿現金受拂簿ヲ設ケ其出納ハ總テ之ヲ記入スヘシ

第二條　帳簿ニ記入スル金員ハ亞剌比亞數字ヲ用ウヘシ

第三條　帳簿ニ謄記スルハ必ス郡區長ノ印章アリテ證據トナスヘキ請求書回議書等ノ書類ニ據リ之ヲ記入スヘシ

第四條　帳簿ニ記入セシ後若シ其證書報告書等誤謬アルヲ發見スト雖モ輙ク訂正スヘカラス必ス其主任ヨリ事由ヲ證明セル報告書ヲ得テ後更正スヘシ

第五條　毎日出納スル所ノ金錢ハ其日ニ於テ帳簿ニ記入完了スヘシ

第六條　現金受拂簿日記簿原簿ヲ取捨シ及ヒ新ニ補助簿ヲ設ケ或ハ式樣ヲ變更セントスルトキハ府廳ノ承認ヲ受クヘシ

第七條　現金受拂簿ヲ執ルモノト日記簿原簿ヲ執ルモノト其主任ヲ異ニスヘシ

第八條　日計表ハ其現金高ト現金受拂簿ノ殘高トヲ照合シ貸借兩區ノ總計ヘ郡區長ノ撿印ヲ押捺スヘシ

第九條　諸物品受拂ノ帳簿ハ適宜之ヲ設ケ新購修理種類品目箇數等ヲ區別シ詳明ニ記載スヘシ

第十條　金錢幷物品ノ記簿ハ他ヘ携出シ又ハ貸與スルヲ得ス

○東京府丙第百九拾六號　郡區役所

田稅金ノ內預米有之場合ニ在テハ右許可後三日限リ其總計金額ヲ郡區長ヨリ租稅局出張所長ヘ報告スヘシ此旨相達候事

明治十六年十二月十八日　東京府知事芳川顯正

○警視廳東京府告示

○警視廳告第貳拾三號

貞清今般靜岡縣ヘ出張ニ付不在中警視副總監綿貫吉直廳務ヲ代理ス右告示候事

明治十六年十二月十八日　警視副總監綿貫吉直

○東京府乙第百貳拾八號

今般其筋ニ於テ本朝ノ農書編纂相成候ニ付農政農業ニ關スル古文書及舊記等總テ農書ニ參考スヘキ書類所持ノ者ハ其題名目次取調當廳勸業課ヘ可差出此旨告示候事

明治十六年十二月十八日　東京府知事芳川顯正

○伺指令

○陸軍省

神奈川縣ヨリ徵發區之儀ニ付伺

徵發令第四條其三項ニ掲示アル町村トハ一町一村ヲ指示セラレタルモノニシテ二三村乃至四五村ヲ聯合シテ一戸長役場ノ管理ニ屬スルモノハ素ヨリ一徵發區ト難見做筋ト相心得居候處本年九月八日發兌官報第六拾號伺指令欄內ヲ閱スルニ其聯合村一戸長役場ノ管理ニ屬スル者ハ一村ト同視シ一徵發區トナスヲ得ルヤノ儀和歌山縣伺ニ伺之通ト御指令アリ果シテ然ルトキハ其聯合町村ニシテ一町村ニ於テ現在スル供給物卽宿舍廐園材料器具ノ類モ其聯合セシ故ヲ以テ他ノ町村ニ於テ其義務ヲ盡サヽルヲ得サル儀ニ有之樣相見ヘ前條第四條第三項（第十二條第四項以下各項及第十三條各項）町村トアル名稱ヨリ生スル同五條ノ明文ハ徒文ニ屬スルモノヽ如ク被存候得共抑同縣ヘ御指揮ノ儀ハ一戸長役場ノ管理ニ屬スル聯合町村ニシテ縱令ハ其經濟ヲ俱ニシ町村會モ俱ニ開設スル如キ其名ハ甲乙町村ニシテ其實一町村ヲ爲スノ類ニ適用スヘキ儀ニシテ仮令一戸長役場ノ管理ニ屬スルモ各其經濟ヲ異ニシ全ク甲乙町村ヲ爲スノ類ハ前段見解之通處分候儀ト心得可然哉此段相伺候也

明治十六年十二月五日

指令

伺之趣數町村ヲ聯合シテ一戸長役場ノ管理ニ屬スルモノハ經濟ヲ俱ニスルト否トニ拘ラス一徵發區ト看做スヘク其徵發物件ハ徵發令第五條明文之通其徵發區內ノ町村ニ現在スルモノニ限リ候儀ト可相心得候事

明治十六年十二月十八日

○文部省

滋賀縣ヨリ町村立小學校長又ハ小學區學務委員兩職互ニ兼務ノ儀ニ付伺

町村立小學校長又ハ小學區學務委員ニ其人ヲ得カタキ場合ニアツテハ兩職互ニ兼勤セシムルハ苦シカラサル哉

明治十六年十月八日

指令（電報）

伺之通

明治十六年十二月十四日

第143号　本文

○高等法院判決

裁判言渡書

新潟縣越後國中頸城郡高田木築町士族

被告人　赤井景韶

二十四年四月

右被告人ハ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ諸省ノ卿以上ヲ謀殺セント決意シ之カ豫備ヲ爲シタリトノ公訴ニ因リ檢察官ノ意見被告人ノ答辨辨護人ノ辨論ヲ聽キ被告人ノ白狀及證憑書類ニ基キ高等法院裁判長陪席裁判官評議ノ上判決スルヿ左ノ如シ

判決

右被告人ハ現今ノ施政自己ノ意ニ適セサルハ要路ノ顯官カ　天皇陛下ノ思召ヲ擁蔽スルニ由ルト思ヒ込ミ是非諸省ノ卿以上ヲ斬殺セント決心シ明治十五年十一月中新潟縣下越後國高田町町田屋ニ於テ井上平三郎風間安太郎ト相會セシ時右兩人ヘ對シ自分決心ノ深奥ハ之ヲ明サス唯要路ノ顯官ニハ必ス　天皇陛下ノ思召ヲ擁蔽スル者アルヘキニ付出京ノ上之ヲ探索シ之ヲ除カント申聞ケ出京旅費ノ爲替ヲ取組ミ明治十五年十一月八日ヨリ右兩人ヲ誘導シ高田ヲ發シ迂路ヲ取リ新潟縣下新潟マテ到リタル處他人ノ爲メニ遏メラレシハ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ要路ノ顯官ヲ謀殺セント決意シ之カ豫備ヲ爲シタル者ト判定ス其證憑ハ左ニ之ヲ明示ス

被告人赤井景韶ハ明治十六年四月十五日新潟輕罪裁判所高田支廳ニ於テ檢察官カ法ニハ法ノ推測アリ掛官ニハ掛官ノ推測アリ今汝ノ如ク唯々知ラス然ラスト云ヘハ何レモ認定推測ヲ用ヒサルヲ得ス却テ汝ノ不利益ナラスヤトノ問ニ對シ唯今迄我答ヘタル處ハ全ク事實ニ違ヒタル僞リニテ其僞リヲ申立テシハ我一身ヲ惜ムノ爲メニアラス先キニモ申タル如ク今般捕縛セラレタル我黨員二十余名ノ安危ニモ關スル處ナリト思ヒ我精神ニ愧ルヲモ顧ミス申タレ𪜈今ヨリ更ニ事實ヲ申立ツヘシ初ヨリ訊問相成度シト答ヘ然ラハ更ニ初メヨリ訊問ニ及フノ間町田屋ニ於テ議シタル事ヨリ申立ツヘシトノ言ニ對シ町田屋ニ於テ議シタル事ハ其精神ハ天誅黨旨意書ニアリ然レ𪜈今ハ之ヲ放棄シタリト答ヘ放棄シタルハ如何ナル事ソトノ問ニ對シ一旦旨意書ノ意ニ由テ相決シ之ヲ擧ケント謀リ新潟ニ迄出タルニテ其道ヲ新潟ニ取リシハ三國ヲ越ヘ人ヲシテ跡ヲ知ラシメサル意ナリ然ルニ船中山際七司ニ逢ヒ共ニ社會平權論ノ意ヲ講シ新潟ニ着シタルニ自分等着スルヤ否直チニ鈴木昌司來レリ之ハ先キニ我輩郷里ヲ出ルノ際ピストル等ヲ携タルト當時熱血ヲ以テセサレハ自由ヲ得ル能ハス寧ロ不自由ニシテ生存センヨリモ死シテ犧牲トナルニ如カスト唱ヘ且ツ自由黨ヲ脱スルト云ヒタル等ヨリ繁祉等ニ於テ自分等ノ擧動ヲ察シタルモノト見ヘ電報ヲ以テ鈴木昌司ヘ通知アリタル由ナリ昌司ハ其事ハ語ラス七司ヨリ自分等ノ新潟ニ出タルヲ聞キタル趣ニテ來リ次テ小柳卯三郎加藤勝彌其他常置委員等出來リ自分等ノ擧ヲ謀ルニ暇アラシメス由テ翌日住吉屋ニ轉宿シタルモ尚又尋ネ來應答日ヲ送ルノ内今村致和相羽嘉尚迎ヒトシテ來リ終ニ昌司致和加藤勝彌等自分等ヲ偕樂館二階ニ伴ヒ說諭セシヲ以テ尚我志ハ我爲ス處ニアリト申居リタレ𪜈其内覺ル所モアリ終ニ先キノ志ヲ放棄シ歸郷致シタルナリト答ヘ先キニ一旦天誅黨ノ主意ヲ行ハント決シタル𪜈大臣參議ノ内誰々ヲ暗殺スヘクト目的ヲ定メタルナリシカトノ問ニ對シ目的ハ

不殘斬ルノ意ナリシナリ天誅黨主意書等ハ平三郎等ニモ示サヽレハ彼等ハ知ラサルナリ唯其主意ヲ協議セシニテ書面ハ自分寢處ノ内ニテ認メ試ミタル迄ナリト答ヘ新潟ニ出ル時ニ當テハ一旦東京ニ出決行スルノ意ハ決シタルカトノ問ニ對シ然リ決シタルナリ併シ未タ手段ハ議セサリシナリ尚其事ヲ行ハント決心シタルハ自分私ニ怨等アルニアラス全ク國家ノ爲メナリト存シ込ミシヨリ出タル事ニテ他人ノ教唆等ニ出タルニモ非サルナリト答ヘタリ又タ明治十六年四月十八日新潟輕罪裁判所高田支廳ノ豫審廷ニ於テ其方ハ昨年十一月九日後新潟表ヘ立チ越シタルヿアルカトノ問ニ對シ參リタルヿ之レアリ候ト答ヘ右ハ何日出發セシヤトノ問ニ對シ十一月九日ニ當地ヲ出發シ同夜黑井宿ニ泊シ翌十日ニ青海川宿片岡ト申旅店ニ泊シ其翌十一日ニハ長岡ニ泊シ同十二日蒸汽船ニテ新潟ニ着同所二番町秋田屋トカ云フ處ニ一泊シ翌日住吉屋ニ移轉シ二日滯留シ同十六日新潟ヲ發足シ同夜ハ新潟ヨリ一里半計ノ處ニ泊シ其翌日ハ寺泊ニ宿シ夫ヨリ柏崎ニ泊シ同十九日當高田表ニ着シタリト答ヘ其方一人ニテ行キタルヤトノ問ニ對シ三人ニテ行キタリト答ヘ夫レハ誰々ナルヤトノ問ニ對シ井上平三郎風間安太郎自分ノ三人ナリト答ヘ三人ニテ新潟ニ行キタルハ何等ノ主義ニテ行キタルヤトノ問ニ對シ政治ノ改良ヲ圖ル爲メ參リタリ尤モ單ニ新潟ニ行キタルニ非ラス東京ニ行ク積リニテ新潟ニ立チ寄リタル譯ナリト答ヘ三人ニテ偶然行キタルカ又ハ何ニカ議決シ行キタルカトノ問ニ對シ別ニ議決シタルヿナシ然レ𪜈高田町ノ町田屋ト云フ旅籠屋ニテ三人ニテ酒ヲ酌ミシヿアリ其時日ハ明治十五年十一月四日頃ト覺ヘタリ而シテ偶々政治ノ談ニ亘リ供ニ慷慨シ政治ノ改良セサル可カラサルヿヲ思ヒ付キ來ル廿日頃ヲ期シ東京ニ出テ供ニ事ヲ圖ルト約シ其場ハ別レタリト答ヘ改良トハ如何トノ問ニ對シ自分ハ其當時ニアリテ時勢上ニ感慨ヲ起シタルヿアリ其感慨タルヤ抑モ吾カ　天皇陛下カ明治ノ初年ヨリ立憲政體ヲ立ルノ詔リアリ然ルニ立憲政體カ立タス人民カ益々苦痛ノ域ニ陷ユルト想像シテ之ヲ平三郎安太郎等ニ發言セシ處右兩人モ素ヨリ同感ナリト云フテ供ニ當時ノ政治ヲ改良センヿヲ思ヒ付キ前キノ如ク東京ニ出ルヿニ約シタリト答ヘ東京ニ出ルニ殊更ニ新潟ニ行キタルハ如何トノ問ニ對シ三國街道ヲ經テ行カント存シ新潟ニ出テタリ其主義ハ風間安太郎ヲ同人ノ宅ヨリ迎ヒニ參リ居ル場合ナレハ信州路ハ本道ニ付キ安太郎ノ追手ノ來ランヿヲ恐レ且ツ政治ノ改良ヲ圖ル爲メニ出京スルヿナレハ其事ノ成ラサル以前ニアリテ發覺スルヿヲ恐レテ間道ヲ撰ミタリ又東京ヘノ爲換高滿數シタルヲ以テ東京ヘハ爲換ヲ組ムヿ相成ラサルニ付新潟ヘ爲換致シ呉ルヽトノ事ニ付新潟ヘ出テタリ右ハ誰レノ發言ト云フ譯ニ非スシテ三人同感ニ依テ決セシモノナリ此時日ハ十一月九日即チ發足ノ當日ナリト答ヘタリ是ニ於テ此ノ二枚ノ草案ハ誰レノ起草ニアルヤト問ヒ天誅黨旨急書及ヒ天誅黨盟約規則ト記シタル草案ヲ示シタリ其文左ノ如シ

天誅黨旨意書

世運衰頽シ人情輕薄ニ流レ國勢日ニ危殆ニ趣キ義理地ヲ拂フ實ニ痛哭流涕ノ至リ矣奸人佞物要路ニ塞リ其慾ヲ逞フシ私利ヲ之レ營ミ吾人ノ國ハ將ニ賣ラレントス吾人ハ將ニ臣妾タラントスル應ニ近キニアル可シ也故ニ吾人ハ天誅黨ヲ組織シ天ニ交代リ奸人佞物ヲ拂ヒ世運ヲ回シ人情ヲ敦厚ニシ國勢ヲ挽回シ義理ヲ

第143号　本文

重ンシ吾國家ヲ永遠ニ維持センコヲ謀ル辛ニ同志ノ志ハ來リ與セヨ焉

吾黨ハ前陳ノ旨意ニ因リ玆ニ牛耳ヲ執リ盤血ヲ歃リ左條項ヲ誓フ

天誅黨盟約規則

盟約第一章

苟モ吾國家ニ不爲メモノアル時ハ吾人ハ躓ヲ回サス天ニ代爰リ之ヲ誅罰スルコトス

同第二章

吾黨ハ義理ヲ重ス故ニ義理ノ爲メニハ身ヲ致スコヲ誓フ

吾黨ノ人ハ吾黨全躰ノ議決ニ依リテハ何等事故アリ共之レカ實行ヲ辭セサルコ

第一條

吾黨ハ何人タリ共前書盟約ヲ守ルコヲ得ルモノハ黨員二名以上ノ紹介ヲ以テ黨長ニ申込可シ黨長ハ惣黨員ノ是トスルヲ待テ入黨ヲ許スコアルヘシ

第二條

吾黨ハ定期會ヲ置カス事アル時ハ臨時會仝ヲ爲ス故月幾度ナルヲモ顧ミサルモノトス

第三條

吾黨ハ前條ノ如キ場合ヲ保ツ故ニ多額ノ入費ヲ要ス依テ月々五拾錢ヲ黨ニ納ムルモノトス

第四條

吾黨ニ黨長二名ヲ置キ黨事一切之レヲ理セシムル者也

此二枚ハ自分カ起草セシモノニテ右ハ昨年十月末十一月初メニ當リテ時勢感慨ノ餘リ此ノ案ヲ起シタリト答ヘ然レハ新潟ニ行キ夫ヨリ東京ニ赴カントスル決意モ此ノ草案ニ因緣シタル者歟トノ問ニ對シ此ノ旨意書ノ通リ感慨ノ餘リ政治ノ改良ヲ爲サンコヲ思ヒ起シタル譯ナリ尤モ盟約規則ト題スル草案ハ直チニ此レヲ履行スルノ意匠ニハ之ナク候右ハ試ミニ寢床ノ中ニテ認メタリ但シ他人ニ示シタルコハ更ニ之ナク候ト答ヘタリ

又タ明治十六年四月十九日新潟輕罪裁判所高田支廳ノ豫審廷ニ於テ其方ハ昨日ノ訊問ニ高田町ノ町田屋ニテ平三郎安太郎等ノ二人ニテ酒宴中時勢ヲ慷慨シ政治ノ改良ヲ圖ラサルヲ得スト二人同感ナリシヲ以テ其事ニ決シタリト申立タルカ改良トアレハ不良ノ政治アル譯ナルヤトノ問ニ對シ昨日申立タル通リ天皇陛下ニ於テハ明治ノ初年ヨリ立憲政躰ヲ立ツルノ詔アリタルモ未タ其立憲政躰ヲ立テラレサルモノハ必ス要路ニアル處ノ大臣參議カ之レヲ擁蔽スルヲ以テナラン故ニ之ヲ除ケテ政治ノ改良ヲ圖ラントスルノ精神ハ天誅黨主意書ニアリト云ヒ然レハ天誅黨ノ主意ヲ議シタルニハ非ラスヤトノ問ニ對シ天誅黨主意書ノ意ヲ以テ議シタルニ相違ナシ然レハ此ノ主意書ハ自分一己ノ草案ニシテ平三郎安太郎等ヘ一覽爲致タルコハ決シテ

之レナク候但シ天ニ代リ誅スルト云フコトハ自分ニ於テ一言モ發シ申サス唯其意ヲ以テ相議シタル義ニ之レアリ候ト答ヘ其方ハ奸賊ノ要路塞ルトカ申立ツルカ又此ノ天誅黨主意書中ニモ奸人佞物要路ニ塞リ其慾ヲ逞フシ私利ヲ之レ營ミ吾人ノ國ハ將ニ賣ラレントス云々トアルカ其要路ニ塞リ慾ヲ逞フシ私利ヲ營ムト云フ者ハ誰々ナリシヤ又此ノ末文ニ牛耳ヲ取リ盤血ヲ歃リ云々トアルカ此語ハ則チ盟主トノ意ナルヤトノ問ニ對シ自分ハ其人々ハ誰レ彼レトナク先ツ各省ノ卿以上ノ要路ニアル處ノ者ハ皆奸人佞物ナリト思フタリ依テ此等ノ者ヲ悉ク除カント決シタル義ニテ當時誰レ彼レト區別ヲナシタル者ニ之レナクトノ供述自分ハ出京ノ上是非各省ノ卿以上ヲ天誅スル精神ナリシナリトノ供述并ニ被告人ノ發言ヲ以テ井上平三郎風間安太郎ヲ誘導シ共ニ東京ニ出ルノ積リニテ新潟マテ發足シ及ヒ新潟ヘ爲替金ノ取組ヲ爲セシ等ノ摸樣ヲ以テ之ヲ證憑ノ全部ニ照スニ被告事件ハ前文ニ掲ケシ如ク判定ス可キノ證憑充分ナリトス

因テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第百二十三條ニ曰　政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ內亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

刑法第百二十五條ニ曰　兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他內亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

內亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

糊トシテ確ト定マラヌ申立ナルカ明白ニ申立ヨトノ問ニ對シ自分ハ出京ノ上是非各省ノ卿以上ヲ天誅スル精神ナリシナリ右直チニ出京ノ上云々ト申立シ直チニトハ東京ニ出テスク其足ニテ天誅ヲナスト申譯ニハ無之出京ノ上尙其用意ヲナシテ天誅ヲ行フ積ト申意ナリト答ヘタリ

右ニ列擧セシ證憑中明治ノ初年ヨリ立憲政体ヲ立ツルノ詔アリタルモ未タ其立憲政体ヲ立テラレサルモノハ必ス要路ニアル處ノ大臣參議カ之レヲ擁蔽スルヲ以テナラン故ニ之ヲ除ケテ政治ノ改良ヲ圖ラントスルノ精神ハ其人々ハ誰レ彼レトナク先ツ各省ノ卿以上ノ要路ニアル處ノ者ハ皆奸人佞物ナリト思フタリ依テ此等ノ者ヲ悉ク除カント決シタル義ニテ當時誰レ彼レト區別ヲナシタル者ニ之レナクトノ供述自分ハ出京ノ上是非各省ノ卿以上ヲ天誅スル精神ナリシナリトノ供述并ニ被告人ノ發言ヲ以テ井上平三郎風間安太郎ヲ誘導シ共ニ東京ニ出ルノ積リニテ新潟マテ發足シ及ヒ新潟ヘ爲替金ノ取組ヲ爲セシ等ノ摸樣ヲ以テ之ヲ證憑ノ全部ニ照スニ被告事件ハ前文ニ掲ケシ如ク判定ス可キノ證憑充分ナリトス

因テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第百二十三條ニ曰　政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ內亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

刑法第百二十五條ニ曰　兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他內亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

內亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

秘 143 之 5

刑法第百二十一條ニ曰　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的トシ內亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二郡衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四敎唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

刑法第六十八條ニ曰　國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期流刑

三有期流刑

四重禁獄

五輕禁獄

右ノ理由ナルニ因リ高等法院ニ於テ被告人赤井景韶ニ對シ刑法第百二十三條及ヒ刑法第百二十五條第一項ニ依リ刑法第百二十一條及ヒ刑法第六十八條ニ照シ一等ヲ減シ無期流刑ニ處ス可キ處原諒ス可キ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第一項ニ重罪輕罪違警罪ヲ分ツ所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得刑法第九十條ニ酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スト雖モ有期流刑ニ二等ヲ減シ刑法第二十三條重禁獄九年以上十一年以下ノ範圍內ニ於テ重禁獄九年ニ處スル者也

明治十六年十二月十七日東京高等法院ニ於テ撿事渡邊襄撿事武內綏撰撿事堀田正忠撿事澄川揃三立會宣告ス

高等法院裁判長判事　玉乃　世履
高等法院陪席裁判官元老院議官　河田　景與
高等法院陪席裁判官元老院議官　林　友幸
高等法院陪席裁判官元老院議官　渡邊　清
高等法院陪席裁判官判事　岡田　重儉
高等法院陪席裁判官判事　關　義臣
高等法院陪席裁判官判事　武久　昌孚
高等法院書記大審院書記　竹端　道忠
高等法院書記大審院書記　荒木　龍兆

○宮廷錄事

○一昨十六日宮中御靈殿及御墓所ニ於テ　故章子內親王ノ百日祭ヲ行ハセラレ　御代拜トシテ侍從三條西公允ヲ　皇太后宮ヨリ權掌侍吉見光子ヲ　皇后宮ヨリ權掌侍萬里小路良子ヲ差遣ハサレ二品貞愛親王二品能久親王三品威仁親王香川宮內少輔宮內大書記官兒玉愛二郎一等掌典櫻井能監侍從堀川康隆三等掌典岩倉具綱宮內權少書記官田邊新七郎宮內省御用掛千種有任同香渡晉從二位中山慶子其ノ他同宮舊祗候ノ華族舊御附女等參拜アリタリ

○官廳彙報

○品川農商務大輔ハ本日神戶披錨ノ越後丸ニテ歸京スル旨昨日電報アリタリ

○大迫警視總監ハ靜岡縣令奉職中ノ事務引繼ノタメ出張ヲ命セラレ本日出發シタリ

○勝香間祇候侯爵竹從二位（義壽）ハ願濟ノ上熱海溫泉ヘ湯治ノタメ昨十七日出立スル旨屆出テタリ

○海軍大佐伊東祐亨外二名ハ去ル十五日左ノ通命セラレタリ

兒木職補比叡艦長　龍驤艦長海軍大佐　伊東祐亨
兒木職補龍驤艦長　攝津艦長海軍中佐　山崎景則
　　海軍少佐　吉島辰寧

砲術質問トノ淺間艦乘組被仰付置候處被差免候事

攝津艦長　海軍少佐　吉島辰寧

○農商務大書記官管船局長塚原周造ハ去ル十一日滋賀縣下瀉上鎭船ヲ檢閱シ同日午後五時十分大坂廳ヘ向ケ出發シタリ

○靑森縣令鄕田兼德ハ一昨十六日ニ滋賀縣令籠手田安定ハ本日靱レヤ出發歸縣」富山縣令國重正文ハ本月九日同縣下射水郡廿六番學區期磨智小學校開校式ニ臨場翌十日歸廳」和歌山縣少書記官秋山恕卿ハ去ル十一日縣地ヘ歸着シタリ」大坂府少書記官香坂昌邦ハ本月八日ヨリ管下大和國添上添下二郡ノ各學校又ハ道路等ヲ巡視シ同十一日歸廳シタリ

○參事院議官細溝泰吾ハ昨十七日除服出仕ヲ命セラレタリ

○大藏權大書記官藤島正健ハ本月六日大分縣ヨリ宮崎縣ヘ着シ同八日伏肥地方ヲ經テ鹿兒島縣ヘ赴キタリ

○此ノ程佐渡鑛山局ヘ出張ヲ命セラレタル工部少技長足立太郎ハ一昨十六日出發シタリ

○豫テ上京中ナル安濃津始審裁判所撿事內田常矩ハ本日發程歸廳シタリ

○內務省准奏任御用掛沖野忠雄ハ去ル十五日三重縣ヘ出張ヲ命セラレタリ

○外務一等屬水野良知ハ昨十七日願ニ依リテ本官ヲ免シ即日外務省ニ於テ左ノ通リ仰付ケラレタリ

御用掛被仰付候事　水野良知

但身分取扱准奏任月俸金八拾五圓下賜候事

○神奈川縣下相摸國鎌倉宮宮司松岡利紀ハ社用及皇典講究所用ニ付去ル十三日上京ノ旨屆出タリ

○國債局調十五度年第四期（自十六年四月至仝年六月）全國備荒儲蓄金出納報告

收入ノ部

金三百八拾七萬三千六百四拾八圓三拾壹錢壹厘　前期越高
金百八萬八千二百拾三圓六拾壹錢壹厘　現金
金貳百四拾九萬九千九百貳拾四圓六拾七錢壹厘　公債證書實價
金貳拾八萬五千四百圓貳錢九厘　米穀代價
金拾五萬九千二拾八圓　配付金
金拾三萬五千五百五拾壹圓八拾八錢五厘　公儲金
金三萬三千貳百七拾五圓四拾八錢貳厘　公債證書賣却代及當錢
金四千六百九拾圓五拾壹錢八厘　仝上益金
金三百四拾五圓七拾五錢七厘　米穀賣却代
金拾貳萬四千六百四拾壹圓五錢六厘　公債證書利子
金壹萬貳千九拾九圓七拾三錢七厘　預ケ金ノ利子
金四百六拾九圓貳拾九錢八厘　地租代與返納
金貳千貳百八拾四圓六拾六錢壹厘　雜收
計金四百三拾四萬六千四拾四圓七拾錢五厘

支出ノ部

金八萬六千百三拾八圓五拾貳錢　罹災救助
金六萬五千四百拾七圓八拾六錢九厘　火災

許可 1143 本文 5ヲ

金六千百四拾七圓五拾四錢八厘　水災
金壹萬八百九拾貳圓六拾貳錢八厘　風災
內
金三拾八圓七拾貳錢　震災
金四百貳拾六圓拾貳錢六厘　（雪山崩）災
金三百四圓九拾四錢四厘　疾病
金貳千九百拾圓六拾八錢五厘　虫害
金千五百六拾三圓八拾五錢五厘　藏敷料
金四百四拾六圓八拾四錢八厘　運送費
金貳千七百貳拾圓四拾六錢八厘　雜出
金三萬三千貳百七拾五圓四拾八錢貳厘　公債証書賣却及當籤賣却米穀及缺減損失
金千貳百六拾六圓貳拾八錢八厘
計金拾貳萬五千四百拾圓四拾六錢壹厘
殘額四百貳拾貳萬六百三拾四圓貳拾四錢四厘　翌月ヘ越高
金百四萬八千貳百壹圓三拾貳錢壹厘　現金
內金貳百七拾九萬千貳百九拾九圓五拾六錢三厘　公債証書實價
金三拾八萬千百三拾三圓三拾六錢　米穀代價
（以下次號）

○愛知縣ニ於テ備荒儲蓄金ヲ以テ貯穀買入方ノ事ニ付本月廿一日ヨリ臨時郡部會ヲ開設スル筈ナリ

○滋賀縣ニ於テハ昨十七日ヨリ開設セル臨時縣會議案中ニ備荒儲蓄米穀購買案、備荒儲蓄金處分規則更正增補案ノ二件ヲ追加シタリ

○岡山縣ニ於テハ中學校師範學校建築、廳舍附屬建物購入、敎育費幷ニ廳舍建築修繕費增額ノ儀ニ付本月二十一日ヨリ臨時縣會ヲ開ク筈ナリ

○兵庫縣囚徒敎誨所ノ建築其ノ工ヲ竣ヘ去月十三日開場シタリ

○兵庫縣管內丹波、但馬ノ兩國ハ寒氣強キモ攝津、播磨、淡路ノ三國ハ寒稍薄ク沿海ノ地ニ在リテ降雪ヲ見ルハ大抵一二月ノ交ニアレトモ其ノ積ミテ堆ヲ爲スコトハ幾ト稀ナリ然ルニ本年ハ寒氣殊ニ甚シク去ル四日ニハ驗溫器三十五六度ヲ昇降シテ積雪殆ト一寸ニ及ヒ有馬郡ノ如キハ其ノ海岸ヲ距ル稍遠キヲ以テ積雪二寸又但馬ニ接スル宍粟郡山崎市中ニテハ一尺二三寸ニ及ヘリ

○京都府ニ於テハ管下上京區第拾壹組寺町通リ石藥師南ヘ入ル西側及寺町裏石藥師南ヘ入ル東側ハ是迄町名無キニ依リテ今度新ニ町名ヲ染殿町ト定メタリ

○兵事

○行軍演習（陸軍省報告）　本日ハ近衞騎兵中隊ノ內二小隊東葛飾郡國府臺村ヘ一泊行軍シ同所市川ニ於テ騎兵渡舩ノ演習ヲ終リテ再ヒ國府臺村ニテ夜間前哨勤務ヲ施行スル筈ナリ

○海軍水兵志願者（山口縣報告）　山口縣ニ於テ本年海軍水兵ノ召募ニ應シ出願シタル者千貳百名アリ

○學事

○小學授業法傳習（山口縣報告）　山口縣ニ於テハ十月十六日ヨリ改正小學授業法傳習ノタメ各郡區授業法取調員ヲ師範學校ニ召集シ去月二十九日ニ其ノ傳習ヲ卒ハリタリ

○農工商事項

○馬市景況再報（栃木縣報告）　栃木縣下野國那須郡黑羽町ニ於テ客月二十八日ヨリ本月四日マテ七日間定期馬市ヲ開設セリ其ノ賣買頭數合計三百貳拾壹頭、此ノ代價金千六百九拾壹圓壹頭平均金五圓貳拾六錢七厘九毛餘ニシテ最高價ノモノ（選馬ニアラス）金貳拾圓、最低價ノモノ金七拾錢、選馬ト稱スルモノ（最上等一市壹頭ニ限ル）金貳拾三圓ナリ之ヲ曩ニ報道セシ同郡芦野宿秋期馬市ノ景況ト比スレハ劣ルヿ、貳三分ナリ然レ𪜈是馬格ノ下ルニアラス就中選馬ノ若キハ芦野宿市場ノ選馬ニ比スレハ勝ルヿ數等ナリ而シテ猶ホ四圓ノ低價ナルハ全ク不景氣ノ然ラシムル所ナリ

○金融景況（大阪府報告）　近時大阪府下一般ノ商況ハ概シテ不景氣ニシテ金融ノ如キモ一時非常ニ緩漫ナリシカ現今ニ至リテハ漸ヤ逼迫ノ兆ヲ見ルニ至レリ今本月十日ノ金融利子步ヲ調査スルニ通常貸金貳錢五厘ヨリ月壹分位交換所日步壹錢五厘東京爲替參着拾貳三錢位同十日目爲替貳拾錢位ナリ是全ク年末ニ際シタルタメナラン

○衝突及難破船（大坂府報告）　和歌山縣下紀伊國有田郡湯淺村山本孫四郎所有船（日本形五十石積）ハ本月八日午后七時頃大坂府下和泉國日根郡谷川村沖合ヲ航海中他船ニ衝突シテ船体破壞シ既ニ覆沒セントセシヲ同所航海中ナル淡路國三原郡由良村魚寄治三郎ノ救助ニヨリ乘組人中右孫四郎、其ノ長男德次郎及竹田仲藏ノ三名ハ幸ニ死ヲ免レタリ又同日同府下西成郡八幡屋新田沖合ニテ淡路ノ出買船壹艘漂流スルヲ看認メ同所天保町浦役場ヨリ人夫ヲ出シ陸地ニ引寄セタルニ船中一物ナク恰モ難破覆沒セシ景況アルヲ以テ海底ヲ搜索セシニ果シテ貳名ノ死体ヲ得タリ依テ種々取調ヘタルニ右ハ兵庫縣淡路國津名郡由良浦池洲七右衞門ノ持船ニシテ溺死者ハ同地龍吉及同郡福浦常造（兩人共姓名年齡未詳）ナリ尙他ニ貳名ノ乘組アリタル由ナレ𪜈其ノ所在ヲ知ラス

○氣象

○地理局報告

全國氣象摘要　本地ノ北西及內海ニ於テ氣壓ノ低下ト共ニ西海ニ沿フテハ東ヨリ南ニ至ル間ノ風吹キ豐後海峽ニ於テ氣壓最モ高シ北部ニ於テ最モ低シ天氣ハ一般ニ陰天ニシテ本地ノ北方ニ於テ雨アリ又溫度ハ九州及北西部ニ於テ上昇シ其他ハ可ナリ低下セリ○長崎ハ九度大坂京都及札幌ハ氷點下一度ナリ又秋田ニ於テハ前二十四時間ニ十四ミリメートルノ降雨アリ

全國氣象十二月十七日　京都時午前六時東京時午前六時十六分　長崎時午前五時三十六分

測候所	晴雨計	風向	風力	雨量	溫度	天氣
長崎	七六七	南東	一	〇	九	曇
鹿兒島	七六九			〇	四	曇
宮崎	七六九	北西	一	〇	三	曇
高知	七六八			〇	二	曇
和歌山	七六七	東	一	〇	一	曇
廣島	七六六	北	一	〇	一	快晴
大坂	七六七	北東	一	〇	九九	曇
京都	七六七			〇	九九	曇
下ノ關	七六七			〇	七	曇
境	七六六	西	一	〇	四	曇
金澤	七六五	南	一	〇	八	曇
岐阜	七六七	北	一	〇	二	曇
濱松	七六五	南西	二	〇	五	曇
沼津	七六五	北	一	〇	一	曇
東京	七六四	北	二	〇	二	曇
新潟	七六三	南西	一	四	四	雨
秋田	七六一	東	二	一四	二	雨
野蒜	七六二	西	二	〇	四	電雷
宮古	七六一			〇	一	曇
青森	七六〇	北	一	〇	二	雨
函館	七六〇			一	一	曇
札幌	七六〇			〇	九九	曇

第143号　本文

例言　晴雨計ハ佛里ミリメートルヲ用フ○風向ハ眞方向ヲ示ス○風力ハ配方零ヨリ六ニ至ル（○ハ靜穩一ハ軟風二ハ和風三ハ疾風四ハ強風五ハ暴風六ハ颶風）ヲ示ス○雨量ハ前二十四時間ノ量ヲ佛里ミリメートルヲ以テ示ス○濕度ハ蔭所ニ於テ攝氏ノ度ニ從フ（氷點ハ○氷點上ノ十及二十度ハ一〇及二〇氷點下ノ十及二十度ハ九〇及八〇）

○海軍病院報告

十二月十七日　午前三時　仝　九時　午後二時

風雨鍼　英寸二十寸〇九六　二十寸一〇七　廿九寸九六八

寒暑鍼　華氏三十七度　三十八度　五十度

濕氣　一ヨリ百ニ至ル　七十七　七十五　七十一

風　方位　八點ニ區分ス　北　北西　南東

速力　英里一七　里　一一　里　一二　里

天候　陰部一ヨリ十ニ至ル一曇　陰部八一曇　陰部九　快晴　陰部一

記事

寒暑鍼高橋五十一度〇（午前零時ヨリ午後二時ニ至ル間ノ實驗）

天候ハ昨十六日午後二時後漸テ快晴日沒後返照シ同八時過ヨリ漸次雲起リ後遂ニ薄曇トナリ今午前十時頃ヨリ時々微晴シ正午頂ニ至リテ稍晴ヲ呈ス風ハ昨午後二時後方位北今午前三時ヨリ北西ニ轉シ正午過ヨリ南東ニ移ル速力ハ昨午後四時ヨリ幾ト無風同八時ヨリ風力稍加ハリ今午前八時ニ至ル平均六里強爾後微弱風雨鍼ハ昨日ニ比スレハ較上昇ス

○公報

○庶報第一號

福井縣下越前國吉田郡栂村戸長役場備置ノ土地建物賣買讓渡質入書入奥書割印簿明治十三年三月五日以前ノ分悉皆紛失候旨届出候ニ付テハ其年間公証ヲ請ケタル者ハ來明治十七年二月十日迄ニ該役場ヘ申出ヘシ若期限内何等不申出ニ於テハ一切關係無キモノトシ他ヘ公証爲取計候也

明治十六年十二月十二日　福井縣

○警報第壹號

福井縣越前國足羽郡板垣村戸長豐田新助官印壹顆本年十月廿五日大阪府東區今橋通五丁目拾七番地篠崎金太郎方ヨリ滋賀縣大津宿マテノ間ニ於テ遺失ス

仝縣仝國吉田郡黒丸村戸長西嶋與三右衛門官印壹顆本年十一月十五日足羽郡乾下町ヨリ吉田郡黒丸村マテノ間ニ於テ遺失ス

仝縣仝國仝郡天池村四拾七番地戸長桑野善助官印壹顆本年十月廿二日仝郡古市村ヨリ仝八卷村ヲ經テ仝天池村マテノ間ニ於テ遺失ス

前書ノ通届出候ニ付各府縣下ニ於テ若シ拾ヒ得候カ又見聞セシ旨届出候者有之候ハヽ該府縣ヨリ當廳ヘ御通知相成度候

明治十六年十二月十一日　福井縣

○廣告

○廣告

大坂第弐拾六國立銀行ニ貸金濟ケ金其他可受取勘定アル者ハ來ル明治十七年二月五日限リ該銀行大坂本店ヘ可申出若シ右期限内ニ申出テサル者ハ鎖店ノ分配ニ差加ヘサルヘシ

明治十六年十二月　大藏省

○郵便船出發廣告

本日午前十一時本局締切田子浦丸ヲ以テ四日市ヱ向ケ郵便差立候事

本月廿三日午前十一時本局締切志摩丸ヲ以テ四日市ヱ向ケ郵便差立候事

但十二月十九日出發ノ廣告取消

明治十六年十二月十八日　驛遞局

○玉川上水ヲ切開告

玉川上水通り多摩ノ人家式拾四番地前通用線修繕ニ付來ル十九日雨天順延午前八時ヨリ午后六時迄ノ間内水留和成候ニ付此旨廣告ス

明治十六年十二月十八日　東京府廳

第 143 号